

平成22年7月29日

高松市長
大西秀人様

高松市塩江地区地域審議会
会長 藤嶋忠男



建設計画に係る平成23年度および24年度の実施事業に関する意見の取りまとめにつ
いて（平成22年5月10日付け高地政第65号に対する回答）

このことについては、別紙のとおりです。

建設計画に係る平成23年度および24年度の実施事業に関する意見について

地区名：塩江地区

番号	項目	意見の内容
1	高松新病院附属医療施設（高松市民病院塩江分院）の施設整備・医療体制の充実	<p>高松市民病院塩江分院の移転整備につきましては、用地の確保が早急に解決すべき問題である。この用地問題について将来を見据え、災害時および緊急医療用としてのヘリ（または災害用）の離着をも視野に入れた広さの用地確保を考えて欲しい。</p> <p>基本計画には、用地取得費等を除いた整備費が16億円超を計上しており、その財源として自己資金7千万円、企業債11億6千万円、合併特例債を含む一般会計出資金が4億4千万円を充当しているようです。この合併特例債に代わる予算措置として、過疎債の活用をしてはどうか。</p> <p>この3月末で期限切れを迎えた過疎法が、平成28年3月末まで6年間延長されることになり、新たな過疎法では、財政支援の対象を従来のインフラ整備だけでなく医師確保などソフト事業にも拡大適用されるようです。医療機関で医師不足が大きな社会問題となっており、塩江分院におきましても常勤医師が3名で1名減のままであり、地域の唯一の医療機関として住民の健康と安心を確保する意味からも、医師確保は重要な課題です。</p> <p>塩江分院の移転整備にあたり、医師不足解消のためにも、適用対象が拡大された新過疎法に係る新過疎債の活用は絶好のチャンスと考えられます。また昨年、患者輸送バスが事業仕分けの対象にあげられました。効率的運用に向けての見直しには異論はありませんが、新過疎法では起債対象をソフト事業にも拡大しており、患者輸送バス事業維持のためにも、その財源として過疎債によって賄えるのではないのでしょうか。ぜひ検討をお願いしたい。</p>
2	新設統合校	<p>今年度中に基本設計、23年度中に実施設計の整備スケジュールが示されていますが、小中一貫教育については保護者の間でもその是非が議論されていない状況ですので、早急に協議会を設置し保護者の理解を得てもらいたいと思います。小中一貫教育に向けた基本設計だけが先行するのでは、保護者の理解を得られないと考えられます。統合校の問題は重要なことですので、基本設計段階から保護者も参画し、より良い学校づくりに保護者の意見が十分反映されるよう配慮して欲しい。</p>
3	新設統合校	<p>塩江地区は林業が基幹産業の一つで、新校舎建設にあたり木材の地産地消の意味からも地元材を積極的に使用し、都市部の学校にはない自然に包まれた山の学校で、地元材を使った「木の学校」作りを検討して欲しい。また予定地周辺は自然環境に恵まれており、エコの観点からも太陽光発電装置の設置とか環境に配慮した設備も取り入れてもらいたい。</p>
4	温泉施設の整備（奥の湯温泉の今後）	<p>奥の湯温泉については、源泉と併せて市の重要な観光資源と位置づけられると思いますが、開設後増改築を繰り返し、本体の建築後相当な期間が経過しており、設備等についても老朽化が進んでいます。また、劣化した部分の一部修繕では奥の湯温泉の今後が見えてきません。リニューアル（建替え）をして、自然豊かな特性を生かし、観光資源としてはもとより、市民の憩いの場として充実させていくべきと考えます。また、塩江地区の中でも辺境の地（上西）であり、公共施設等も少ないことから、当該温泉が地域の活性化に寄与できる施設として確立してもらいたい。今後の展望・計画をお聞きます。</p>

番号	項目	意見の内容
5	農業の振興	<p>旧町時代からの「塩江茶」と云う確立されたブランド名が、今衰退しています。現状は小規模生産者が多く、後継者難で茶畑が荒廃・縮小しており、このままでは存亡の危機といえます。塩江茶は寒暖の差が大きい山間地区で栽培されており、品質には定評があります。オーナー制度、一般参加型、観光農業等いろいろな建て直し方策があるかと思しますので、山間部の地域特性を生かした振興策を検討していただきたい。</p>
6	たかまつマイロード事業	<p>高齢者が大多数の現状では、共同作業での市道管理（草刈等）はできなくなりつつあります。特に限界集落では、道路管理が広範囲な上、地理的にも険しく、人的対応は限界があります。前回の回答で、「適切な道路維持管理に努めて・・・」とあるのはどのような対応を考えているのでしょうか。旧町時代のように金銭での助成があれば、労働負担の重い箇所は適宜委託等をして、個人の体力に応じた管理もできますが、このままでは道が荒廃し、生活できなくなのではないかと心配です。山間僻地での管理方法は高松市内と同一、画一的に行うのは無理があると思いますが、どういう対応を考えているのでしょうか。</p>
7	森林の保全と活用	<p>塩江町につきましては、面積の約83%が山林・森林という特性がありますが、この広大な緑も、山林の保全（間伐・下刈り等）が十分でなく、現在荒廃しつつあり、何とか保全の手立てを講じていただきたい。地域活性化の方策として、豊かな森林資源を生かした特産品づくりとか市有施設等への間伐材の積極的活用等を考えて欲しい。</p> <p>また、黒石地区には広い市有林があり、地域審議会でも市民の森づくりということで提案し、現在黒石地区でフォレストマッチング等によって、森林の整備植栽がされつつあります。この市有林については、いままでも議論されてきたことから、いろんな活用策の検討をされていると思いますが、市民の間でも環境意識が高揚してきている現在、森林を活用した環境学習ができる体験型施設の整備などをして、ひいては塩江地区の活性化につながるような市有林の整備・活用を要望します。</p>